

# 「高田図書館 110年の歩み」

## 日本国内及び新潟県内での図書館の設立の経緯

明治維新後、既に欧米で成立していた一般市民を対象とした公共性の高い図書館が、日本国内でも次第に設立されました。当初は、「図書館」ではなく「文庫」「縦覧所」「書籍館(しよせきかん/しよじゃくかん)」などの呼称が用いられていました。その第1号は、文部省が旧幕府から接收した書籍類をもとに明治5年(1930)8月に旧湯島聖堂内に設立した書籍館しよじゃくかんだといわれています。この書籍館は、その後何度か移転・名称変更を行いますが、明治39年3月に帝国図書館、昭和23年(1948)に国立国会図書館と改称しています。

図書館の呼称が国内に定着するようになるのは、図書館令が公布された明治32年11月11日以降です。ただし、明治時代は「としょかん」と「ずしょかん」の2つの呼び方が使われており、「としょかん」に統一されるようになるのは大正時代に入ってからのことでした。

新潟県内の各図書館の設立の経緯については、『新潟県史』でも取り上げていないため、全体を網羅する情報は残されていません。『高田市史』第2巻には、「**図書館の設立を県下全体で見ると、(明治)四十三年三月三十一日現在で、新潟県は一三、内訳は新潟市三の外、長岡市および柏崎・糸魚川・村上の四町、北蒲・岩船・中魚・南蒲・佐渡の五郡で成立している。【中略】(同日付官報)**」との記載があります。あえてふれられていませんが、この時点では既に高田図書館も開館しており、県内の図書館総数13館の中にカウントされています。なお、明治32年の図書館令公布当初は、公立図書館の設置に際しては文部大臣の認可、私立図書館の設置に際しては文部大臣への報告が必要とされていました。明治43年の図書館令の改正により、道府県立図書館の認可は文部大臣、それ以外の図書館の認可は道府県知事が行うことになりました。

『高田市史』に記載された県内の図書館総数13館は、正式に認可されていた図書館のみに限定されており、実際にはそれ以上の図書館が設立されていたと思われます。一例を挙げると、高田町では、高田図書館の設立より半年余り早い明治40年11月に、高田第一尋常小学校(現南本町小学校)内に「高田通俗図書館」が設立されています。当時、

「通俗(教育)」は現在の社会教育の意味で用いられており、高田通俗図書館は一般人を対象にしたものでした。設立に際しては、趣意書が発表され、これに賛同した多数の人々から現金や書籍の寄付が行われました(高田新聞 明治41年1月7日)。明治42年一年間の貸出利用者数は4,595人で(4月1日から7月21日までは都合により休館)、月平均にすると560人余りの利用があったことが分かります(高田新聞 明治42年1月7日)。これは、開設当初の高田図書館をはるかに凌ぐものでした(高田通俗図書館は、大正7年3月に閉館)。

新潟県内の主な図書館の設立年月日

和暦(西暦)	月日	出来事
明治21年(1888)	11月	(私立)糸魚川書籍館開館
明治35年(1902)	5月24日	(私立)新潟図書館開館
明治37年(1904)	9月	(私立)戦勝記念長岡図書館創立
明治38年(1905)	9月28日	(私立)沼垂図書館開館
同年	9月	(私立)柏崎図書館創立
明治40年(1907)	11月	(私立)高田通俗図書館創立
明治41年(1908)	6月27日	県社榊神社三百年祭記念立高田図書館開館

(「創立」「開館」は、各自治体史の表記に基づく)

## 榊神社の付属図書館として誕生した高田図書館

創成期の新潟県内の図書館の多くは資産家や蔵書家が設立していますが、高田図書館は事情を異にしています。明治41年(1908)6月27日に誕生した高田図書館は、「**県社榊神社三百年祭紀念立高田図書館**」と名乗りました。館名からも分かりますとおり、榊神社三百年祭の記念事業のひとつとして設立された榊神社付属の私立図書館でした。三百年祭は榊原藩の藩祖である榊原康政の生誕三百年を記念して明治38年に実施される予定でしたが、日露戦争の勃発や県社への昇格運動などの関係から延期され、明治40年5月に実施されました。高田図書館もこの時に開館する予定でしたが、資金難や当初計画の変更などにより、予定から一年余り遅れて開館しました。

高田図書館の創設にあたっては、旧高田藩士が尽力しました。旧藩校の<sup>しゅうどうかん</sup>脩道館には約7,800冊の蔵書が死蔵されており、これを一般に公開するというのが図書館創設の目的でした。

高田図書館は、発足当初から独立の施設で開館しました。この施設は元々、明治11年に高城村岡島町<sup>現大手町十字路  
(東側駐車場付近)</sup>に新築された高田中学校の校舎の一部でした。同年9月の明治天皇の北陸巡幸では、中学校の使用前であったため、<sup>あんざいしよ</sup>行在所として使用されています。明治31年5月に、生徒数の増加により高田中学校は馬場先町<sup>南城町  
(3丁目)</sup>に新築・移転し、その後に町村組合立高等小学校<sup>(高田・下板倉・大和・北大崎・  
下ノ郷・新道・高志・春日)</sup>が入りますが、37年4月に組合が解散し、空き校舎となりました。土地・建物は中頸城郡の所有であったため、榊神社三百年祭協会は、明治40年2月に校舎の南側1棟と敷地を購入しました。同協会では、購入した建物(本館)に玄関を設けるとともに、書庫を新築してこれを廊下で本館とつなぎました。

## 県内ではいち早く公立化された高田図書館

高田図書館の経営は、開館当初から困難を極めました。三百年祭で集めた基金は、土地・建物の購入や改築等で使い果たし、収入は賛助会員をはじめとする有志からの寄付金に頼っていました。このため、開館から半年しか経っていない明治41年(1908)12月に、郡営への移管を申請しています。郡長の賛同は得られたものの、最終的に中頸城郡会で否決されてしまいました。

それから間もない明治42年2月、内務省神社局から神社による図書館経営をやめるよう通達があり、県社榊神社三百年祭紀念立高田図書館は、明治43年1月から有志22名による「(私立)高田図書館」として再発足しました。しかし、このままでは経営難から脱却できないため、明治44年3月19日に高田図書館の寄付採納を高田町に申請し、高田町会の承認を得ることに成功しました。同年4月7日に新潟県知事へ町立図書館設立の申請が行われ、同年7月6日に認可されました。その後、高田町立高田図書館の開館式は、同年7月22日に挙行されました。同年9月1日に市制が施行されたため、同日から高田市立高田図書館と改称しています。

なお、新潟県内の図書館の多くは私立で発足し、後年、市町村に寄付されて公立図書館として再発足しています。その中でも、高田図書館の公立化はいち早く行われたといえます。

(刈羽郡立柏崎図書館発足=大正3年7月/明治記念新潟県立図書館創立=大正4年4月)  
(長岡市立互尊文庫創立=大正6年11月/新潟市立沼垂図書館発足=大正15年4月)



## 高田図書館の改築と移転の歴史

### 高田幼稚園、市立商工学校との同居時代

明治 44 年(1911) 5 月に私立高田幼稚園が創設されますが、開園以前から市営化への動きがあったこともあり、最初は高田高等小学校(後の大町中学校、現大町小学校)に付設されました。しかし、同園の市営化が市会で否決されたこともあり、翌 45 年 4 月に高田図書館と棟続きの北側の校舎に移転してきました。大正 5 年(1916) 2 月に、高田幼稚園の市営移管が市会で可決され、同園は同年 6 月に大手町尋常小学校の西隣に新築・移転しました。

大正 5 年 4 月には市立商工学校が設立されています。それまで高田幼稚園が使用していた校舎に入ることになり、同年 5 月 9 日に入学式を挙げています。なお、商工学校では、定員拡充や授業内容の充実を図るため、3 回にわたって校舎を増築しました。

### 岡島町から中小町への移転

大正 8 年(1919)になると、商工学校が就職口のない漆工科の卒業生のために附属工場を建設することになり、高田図書館の館舎も使用する必要が生じました。これにより、高田図書館は岡島町(現大手町)から移転し、中小町(現本町 5 丁目)の陶山荒物店跡の土地・建物を(現在の紺太上越店付近)を借用することになりました。借用したのは木造 2 階建ての民家であったため、移転に伴い大規模な改造が行われました。建物の外側も淡緑色のペンキで塗り変えられました。館舎の延べ床面積は、旧館が 87 坪(約<sup>288</sup>㎡)であったのに対し、新館は 134 坪(約<sup>443</sup>㎡)であり約 1.5 倍の広さになりました。大正 8 年 3 月 21 日から移転準備を行い、同年 4 月 3 日に開館しました。最終的に、高田図書館が中小町で開館した期間は約 4 年間でしたが、高田新聞(大正 12 年 3 月 29 日)が「**中小町へ出てから四年間に市民との接触も非常に多くなり図書館の活用者が激増した**」と伝えるように、市街地の中心部に立地した利点が発揮されました。

中小町に移転した高田図書館を記した『大正 10 年(1921)高田市統計書』の付図



(上越市公文書センター所蔵)

### 図書館創設の地・岡島町への復帰

大正 10 年(1921)になると、高田市は市立商工学校の県立移管を構想するようになります。具体的には、商工学校を現行の 3 年制から 5 年制に拡充するとともに、校舎を馬場先町(現南城町 3 丁目)へ新築・移転し、高田図書館を再び岡島町に戻し商工学校の校舎を館舎に充てるというものでした。校舎が新築された商工学校は、大正 11 年 12 月 24 日に落成式を挙げて行いました(商工学校の県立移管は、大正 14 年の県会で可決)。商工学校の移転後、校舎を高田図書館の館舎に転用する改造工事が実施され(商工学校開校後に北側に増築した校舎は馬場先町校舎に移築)、大正 12 年 6 月末に竣工しました。中小町から荷車 90 台分の荷物を 1 週間かけて岡島町へ運び出し、同年 7 月 11 日に開館しました。館舎の延べ床面積は、200 坪(約<sup>661</sup>㎡)と中小町時代の約 1.5 倍、図書館創設時の約 2.3 倍になり、閲覧室が広がっただけでなく、会議室や休憩室なども新たに設けられました。このほか、榊神社側(現上越大通り)に面していた玄関が、司令部通り側(現大手町通り)に変更されました。さて、中小町から岡島町への移転で心配されたのは、利用者の減少です。市民の来館を促すため、開館直後の 7 月 14 日から 3 日間、行在所内の御座所や玉座の拝観も組み込んだ「図書館参観デー」を実施しています。

## 戦時中の改築と重要書籍の疎開

戦時色が深まってきた昭和 17 年(1942)、空襲による焼失を防ぐ目的で、行在所を館舎から分離し、防火壁(漆喰)で覆う工事が行われました。この時、史跡であった行在所はそのままし、館舎を曳家工法で東側へ 7 間(約 12m)移動させました。工事は 4 月に開始される予定でしたが資材の調達がつかず、8 月 6 日に工事が始まり、10 月 9 日に完了しました。工事期間中、高田図書館は当時司令部通りにあった天主公会の建物を借用し、仮移転しました。同年 4 月 10 日から移転作業を開始し、同月 16 日に開館しました。そして、7 か月間仮住まいをした後、工事が終了した高田図書館に戻り、11 月 15 日に業務を再開しました。

昭和 19 年 6 月 16 日の九州北部の八幡空襲以後、日本各地でアメリカ軍による空襲が頻繁に行われるようになります。このような情勢の中、同年 7 月には、高田図書館の敷地内に防空壕が 3 つ造成されました。このうち 2 つは大手町(旧岡島町を含む/昭和 5 年 4 月 1 日町名改正)隣組用のもので、残り 1 つは高田図書館専用のものでした。また、高田図書館は、空襲から貴重な図書や資料を守るために、これらの疎開先を探しました。小田亀雄司書と親交のあった里五十公野村(現三和区)の渡部平治村長が自宅の倉庫を提供してくれることになり、昭和 20 年 7 月上旬にトラックや荷車で脩道館文庫などを運び入れました。

### 防火壁で覆われた行在所



(撮影時期不明/高田図書館所蔵)

## 鉄筋コンクリート造りの館舎への改築

昭和 20 年代半ばを過ぎると、基礎の不同沈下により館舎がゆがむなど老朽化が顕著となり、昭和 32 年(1957) 6 月に図書館改築促進委員会が結成されました。昭和 34 年 2 月、同委員会は高田市議会に改築の陳情を行いました。しかし、昭和の大合併の最中であった高田市は、小・中学校の改築など優先して取り組むべき案件が多く、財政的な余裕はありませんでした。また、改築には莫大な費用が必要であり、国や県の交付金も獲得しなければなりませんでした。その後、これらの課題が克服され、昭和 37 年 4 月から高田図書館の改築工事が本格的に開始されました。工事は約 8 か月間で終了し、同年 12 月 27 日に落成式が行われました。ちなみに、戦前は史跡となっていた高田図書館敷地内の行在所は、全国の 336 か所の明治天皇聖蹟(行在所や小休所など)と共に昭和 23 年 6 月 29 日に史跡解除となっていました。80 余年の歴史を刻んだ行在所は、この時の改築工事で木造の館舎と一緒に取り壊されました。

工事期間中、高田図書館は、まず昭和 36 年 11 月 7 日に本城町の中央公民館(旧借行社/陸軍将校の集会所)に仮移転しました。翌 37 年 4 月に厚生会館(上越市発足後は厚生南会館に改称)が開館すると、中央公民館は厚生会館に移転しましたが、その後に教育委員会が入ることになり、これに押し出される形で、高田図書館は同年 4 月 20 日に寺町 2 丁目の金谷公民館に引っ越しました。中央公民館・金谷公民館時代は、閲覧室を設置できなかったため、館外貸出し、巡回文庫、自動車文庫による業務を行いました。

鉄筋コンクリート造り 2 階建ての近代的な施設に生まれ変わった高田図書館の開館式は、昭和 38 年 1 月 20 日に挙行されました。延べ床面積は 1,041 m<sup>2</sup>で、旧館の約 1.6 倍となりました。1 階には、児童閲覧室、ホール展示室、集会視聴覚室、事務室、書庫等が配置されました。2 階には、第 1 閲覧室、第 2 閲覧室、参考図書室、新聞・雑誌閲覧室等が配置されましたが、1 階とは異なって壁による仕切りがなく、書架とロッカーの配置で間仕切りを自由に変更できるように工夫されていました。

## 本城町(現在地)への移転・新築

情報化社会の進展や図書館に対するニーズの多様化などを受けて、昭和50年代になると高田図書館の建て替えを求める声が聞かれるようになります。上越市発足20周年にあたる平成3年(1991)に高田図書館を高田公園の忠霊塔東側に移転・新築することが決定され、翌4年7月23日から建設工事が始まりました。平成6年7月15日に開館した新しい図書館は、地上2階、地下1階、延べ床面積は4,306㎡で旧館の約4.1倍となりました。開館の1年半前に発行された広報じょうえつ(第474号/平成4年11月1日)は、新館について取り上げていますが、「新しい図書館は、図書の実とコンピュータ化によるサービスの向上を図りながら、様々な情報の提供や自由に使える市民ギャラリーなどコミュニティ機能をあわせもった施設として誕生します。だれでも気軽に利用できる、まさに地域の文化、情報の拠点です。」と伝えています。

## 高田図書館の主なサービスの変遷

### 館内閲覧料の徴収

明治32年(1889)に公布された図書館令第7条には「公立図書館ニ於テハ図書閲覧料ヲ徴収スルコトヲ得」との条文があり、公立図書館でも閲覧料を徴収することが認められていました。このため高田図書館では明治41年の開館以来、明治44年の公立化(同年7月に高田町立→同年9月に高田市立)後も閲覧料を徴収しました。その後、大正7年(1918)4月から、閲覧料は廃止されました。

### 館外貸出し

館外貸出しは、大正7年(1918)4月から実施されました。当初は、特別の事情がある場合に限定されていました。また、閲覧料だけでなく保証人も必要でした。閲覧料の徴収は、昭和25年(1950)に公立図書館の利用料無料の原則を定めた図書館法が公布されるまで続きました。昭和26年4月に館外閲覧料が廃止されたのと同時に、保証金を預かる制度に変更されました。この保証金制度も昭和43年9月に廃止され、同時に保証人も不要になりました。

### 開館日と休館日

開館当初は、曜日に関係なく毎日開館しました。休館日は、祝日であった紀元節(明治6年に定められた祝日。神武天皇が即位したといわれる2月11日。昭和23年廃止)と天長節(明治元年に制定された祝日。天皇誕生日の旧称)、年末年始、月末掃除日、10月中に実施した曝書(ばくしょ、書物を風に当てたり、日にさらしたりすること)期間(10日間程度)でした。昭和29年(1954)6月からは、国民の祝日、月曜日、年末年始、曝書期間、図書整理日(月末)が休館日と定められました。その後、昭和40年4月から月曜休館を日曜休館に改めましたが、昭和60年10月から再び月曜休館に変更しました。なお、現在の休館日は、月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日及び祝日は除く)、館内整理日(原則として毎月第3木曜日)、年末年始(12月29日～1月3日)、特別図書整理期間(1月下旬の約1週間)です。

### 自動車文庫

書棚を搭載した自動車で、図書館から遠い地域を定期的に巡回し、本の貸出しを行う自動車文庫は、昭和の大合併を契機に誕生しました。昭和29年(1954)4月1日、高田市は金谷村及び新道村を編入し、高田市の広域化が始まりました。昭和34年11月1日に高土村を編入して高田市の隣村合併は終了しますが、昭和の大合併により、高田市の面積は約8㎢から約145㎢と18倍余りになりました。昭和29年12月に開催された図書館協議会では自動車文庫の必要性が話題となり、市当局に対してその導入が要請されました。これを受けて、昭和30年から32年にかけて合計4回にわたり自動車文庫の導入試験が行われました。昭和36年に自動車文庫専用の自動車を購入され、「みゆき号」と名付けられました。同年10月24日に自動車文庫は本格稼働を開始しました。上越市の発足後、平成の大合併による新・上越市の発足後も、みゆき号は代を重ねながら市内各所を巡回しましたが、平成26年(2014)12月をもって自動車文庫は終了しました。

## 高田図書館関連年表

和暦 (西暦)	月日	出来事	館舎	和暦 (西暦)	月日	出来事	館舎
明治41年 (1908)	6月27日	県社神社三百年祭記念立高田図書館開館	岡島町(現大手町・大手町十字路東側駐車場付近)の旧高田中学校の南側一棟及び新築の書庫	昭和20年 (1945)	7月 3日	里五十公野村(現三和区)の渡部平治村長宅に、貴重な資料を疎開	旧高田中学校(市立商工学校)校舎の全棟
同年	12月	中頸城郡へ郡営への移管を申請(中頸城郡会で否決)		昭和22年 (1947)	11月19日	日本の民主化を図る目的で、アメリカから図書70冊寄贈	
明治42年 (1909)	2月	内務省神社局が、社寺による図書館経営を禁止することを通達		昭和25年 (1950)	8月 1日	閉架式から開架式に変更	
明治43年 (1910)	1月	有志22名による(私立)高田図書館発足		同年	10月20日	榊神社から榊原藩政史料約2千点寄贈	
明治44年 (1911)	3月29日	高田町へ高田図書館の寄付を申請		昭和26年 (1951)	4月 1日	館外閲覧料を無料とし、保証金預託方式に変更	
同年	3月31日	高田町への寄付採納が認められ、(私立)高田図書館閉館		同年	5月27日	レコードコンサート再開(翌月から毎月第二土曜の夜に開催)	
同年	7月 6日	高田町立高田図書館認可		同年	10月20日	第1回図書館協議会を開催	
同年	7月22日	高田町立高田図書館開館式(仮開館は同年5月16日)		昭和29年 (1954)	4月 1日	高田市が金谷村及び新道村を編入(隣村合併開始)	
同年	9月 1日	市制施行に伴い高田市立高田図書館に改称		昭和30年 (1955)	10月26日	自動車文庫を試験的に実施、以後、昭和31年と32年にも実施	
明治45年 (1912)	4月	(私立)高田幼稚園が高田高等小学校(現大町小学校)から図書館と棟続きの北側校舎に移転		昭和33年 (1958)	4月 1日	昭和20年8月から中断されていた団体貸出しを再開	
大正 4年 (1915)	9月	明治記念新潟県立図書館による巡回文庫開始		昭和36年 (1961)	10月24日	初代「みゆき号」による自動車文庫開始	
大正 5年 (1916)	5月	高田幼稚園が使用していた校舎で市立商工学校が開校(入学式は同年5月9日)		同年	11月 7日	図書館の新築工事に伴い、中央公民館(旧借行社)に一時移転	
同年	6月	高田市に移管された高田幼稚園の新築園舎が大手町尋常小学校の西隣に竣工		昭和37年 (1962)	4月20日	旧借行社から金谷公民館に再度一時移転	
大正 7年 (1918)	4月 1日	館内の閲覧料廃止/図書目録をカード式に変更/図書の館外貸出し開始	昭和38年 (1963)	1月20日	鉄筋コンクリート造りの前図書館が開館	大手町の鉄筋コンクリート造りの前館舎	
同年	6月 6日	日本図書館協議会主催第13回全国図書館大会を新潟県内3市で開催(~9日/高田市開催は9日)	同年	6月16日	映画、紙芝居、お話を内容とした「としよかんども会」開始		
大正 8年 (1919)	4月 3日	商工学校の付属工場増設に伴い、岡島町(現大手町)から中小町(現本町5丁目)に移転・開館	昭和40年 (1965)	4月 1日	月曜休館から日曜休館に変更		
大正11年 (1922)	12月24日	商工学校が馬場先町(現南城町3丁目)に新築・移転し、落成式を挙行	昭和43年 (1968)	6月21日	創立60周年事業のひとつとして「上杉謙信展」を開催(~30日)		
大正12年 (1923)	6月	商工学校が使用していた校舎の館舎への転用工事が竣工(旧高田中学校の校舎2棟すべてが館舎になる)	同年	9月	図書の館外貸出しに伴う保証金預託及び保証人の申告を廃止		
同年	7月11日	中小町から岡島町に復帰し、閉館	昭和44年 (1969)	3月31日	『創立六十周年記念 高田市立図書館小史』刊行		
昭和 2年 (1927)	6月15日	「高田市公報」で購入図書・寄贈図書を初めて紹介	同年	***	戦前の地域紙のマイクロフィルム化を開始(昭和45年終了)		
同年	8月 1日	「レコードと童話少年少女大会」(レコード演奏、独唱、合唱、ハーモニカ演奏等も実施)を開始、以後毎月開催(昭和18年4月2日まで)	昭和46年 (1971)	4月29日	高田市と直江津市の合併により、 <b>上越市立高田図書館</b> に名称変更		
昭和13年 (1938)	***	陸軍衛戍病院(現地域医療センター一病院)へ文庫の慰問巡回開始	昭和60年 (1985)	10月 6日	日曜休館から月曜休館に変更		
昭和14年 (1939)	9月 6日	市内小学校、青年団等を対象とした団体貸出しを開始(昭和20年8月の終戦まで)	平成 6年 (1994)	7月15日	本城町に新築移転し現在の図書館が開館		本城町の現館舎
昭和17年 (1942)	4月16日	明治天皇行在所分離に伴う図書館曳家工事により、天主公会(大手町)に一時移転して開館	平成 9年 (1997)	4月26日	「上越子ども読書の日」(毎月第4土曜日)制定		
同年	11月15日	天主公会での間借りを終えて、図書館での業務を再開	平成12年 (2000)	7月	インターネット対応図書館情報システムを構築		
昭和19年 (1944)	7月	空き地に防空壕(隣組用2、図書館用1)を造成	平成17年 (2005)	1月	新・上越市の発足に伴い、2分館・11分室を統括		
			同年	10月 1日	小川未明文学館が高田図書館1階に開館		
			平成20年 (2008)	6月28日	高田図書館創立100周年記念式典、記念展開催(~7月13日)		
			平成21年 (2009)	4月23日	文部科学大臣表彰		
			平成26年 (2014)	12月	みゆき号による自動車文庫終了		
			平成28年 (2014)	4月 1日	高田図書館の分室を公民館図書室に移行		
			平成30年 (2018)	6月27日	創立110周年		

